ユニバーサルデザイン

UD さがみはら

Vol. 2

2024 November

ユニバーサルデザインでインクルーシブ&ダイバーシティなまちづくり

2024.9.28
ラウンジふくしまつり
「くらしの中のUD」展示より

●イベントを UD にしてみよう
●当事者と主催者の コミュニケーションで UD が開く

UD（ユニバーサルデザイン）とは…
「みんなが暮らしやすくなるための工夫」のことです。
この通信は、市民協働提案制度事業「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」として地域包括ケア推進課と NPO 法人ここずっとが発行するものです。

▲毎年、開会式にはＵＤトークを活用したオンタイム字幕を付けています。今年はインド英語との２か国語表示を行いました。

2024.9.28
南区地域福祉交流ラウンジ

ラウンジふくしまつり

相模大野にある南区地域福祉交流ラウンジで開催されたふくしまつり。今年は、まつりの準備段階から UD 視点の手法を取り入れて工夫してみることに。手始めがポスター・チラシを誰でも見やすいものにして、そこに音声コードを付けてみました。

▼活動紹介ポスターには本紙にも利用している Uni-Voice という音声コードつきで展示を行いました。

▲円内は「ナビレンス」
道案内してくれる音声コードのひとつ。
ショッピングモールと市営駐車場の間にあるトイレへの誘導を音声で知らせてくれます。

\イベントを/

少しの工夫で だれでも楽しく参加できる
それがユニバーサルデザイン

2024.10.17,22,25

フォトシティさがみはら受賞作写真展 視覚障がい者とともに写真を鑑賞する会

相模原市主催の文化事業として2001年から開催されている写真展では、2010年から視覚障がい者に展示ガイドしています。
受賞写真家の手助けも得て、今年も実施。

2024.9.11@MOVIX 橋本

視覚障がい者とともに 映画鑑賞会

MOVIX 橋本
相模原市緑区橋本３- 3-1
SING 橋本内
☎050-6865-6065

相模原市視覚障害者協会のみなさんに声掛けして、市内唯一のロードショー映画館 MOVIX 橋本で映画鑑賞会を持ちました。参加者12名。近所にお住まいの目の不自由なご夫婦が、初めて館内に足を踏み入れたと言われていたのが印象的でした。次回は上映後の感想おしゃべり会も実現したいと思っています。
MOVIX 橋本では、音声ガイドの付いている映画の上映のほか、子育て中のお母さんが映画を観られる取組みもされています。

ここ?そこ!UD

当事者と主催者のコミュニケーションで UD が開く

相模原納涼花火大会がユニバーサルデザインに

８ 月 24 日に開催された第 51 回相模原納涼花火大会。今年は初めて【車いす専用観覧スペース】が設置されました。

相模原市中央区で ３ 人のお子さんを育てる玉田美保さん。８ 歳の息子さんが車いすを使用しています。お子さんが １～ ２ 歳の頃は抱っこで花火大会に行っていたそうですが大きくなってくるとさすがに抱っこでは難しく、かといって河川敷での花火大会に車いすで向かうことも憚られ、何年か観覧を見送っていたそうです。

▲ 玉田美保さん

しかし「車いすだからと言って諦めるのは悔しい！」そんな思いで、SNS を通して市長へメッセージを送ったのが７月 16 日。実行委員会（以下、委員会）からの最初の回答は「車いす席の用意はない」というもの。しかし市や委員会には玉田さんの他にも複数の方から車いす席の要望が届いていたことから委員会は車いす席を再検討。実行委員長の久野さんの決断により、８ 月 ６ 日に設置が決定。スロープやトイレの修繕、案内文の作成などが急ピッチで進められました。

▲車いす用観覧スペースの案内

委員会が当初「車いす席の設置をしない」と回答したのは「難病の患者さんなどに何かあった場合に責任が取れない」という不安から。しかし、当事者の皆さんから「ダメ元でもいい」「完璧じゃなくてもいい」という言葉があった事で「なんとか可能にしたい」と気持ちが変わったという久野さん。

玉田さんは会場近くの施設の駐車場から河川敷の遊歩道まで舗装された道で行けるルートを委員会に提案。当日は提案とほとんど同じルートが確保され、車いすの皆さんもスムーズに移動することができたそうです。

▲ 当日の花火大会のようす

当日は５組が車いす席で花火を鑑賞。「また一緒にこの花火を見られるなんてねぇ」と来場者から喜びの声が聞こえてきたとのことです。それらの喜びの声を聞いて「来年以降の励みになった」と久野さんは話します。

委員会と障がい当事者の方とのコミュニケーションにより初めて設置された車いすスペース。取材を通して感じたのは、検討から設置を決めるまでの間に関わった皆さんの気持ちの変化。不安や困難さを理由に断ることは簡単。断られて諦めるのも簡単。でもそれで終わらずに可能な方法を双方で導き出した素晴らしい事例だと感じました。その根底にあったのは市長の「誰ひとり取り残さない」という言葉。「私もいるよ！」と取り残されそうになっていた当事者が声を届けたことがユニバーサルデザインの種となり、夜空に咲く大輪の花をより多くの人と楽しむことにつながったのではないかと思います。

UDアリオにあるよ

Aruyo Ario

連載第1回

「UD にひと手間」

アリオ橋本には、そこかしこにユニバーサルデザインがあります。相模原の身近な例として、今号から紹介記事を連載していきます。

まず初回は、多目的トイレの案内放送起動スイッチから。

目の不自由な人が「トイレに行きたい！」と誰かに頼むと、多目的トイレに案内されることが多いと聞きます。でも、目が見えないと多目的トイレは広すぎて、どこに何があるかよくわかりません。「流す」ボタンを押したつもりが、非常用ボタンだったり、出口がわからなくなって、トイレで「遭難」したりは、「視覚障害者あるある」だそうです。

アリオ橋本の多目的トイレに入ると、「トイレ内の詳しいご説明をお聞ききになりたいお客様は、入口を入って左側のボタンを押してください。」と音声が流れます。そのボタンを押すと、トイレの中にあるものの配置を順番に説明してくれます。

誰もが使えるよう、目が不自由な人が使う時のことも考えて生まれたボタンです。

ちなみに、目が不自由な人の中にも、多目的トイレのほうがいいという人もいます。

☞アリオ橋本の多目的トイレの音声ガイドは上記QRコードから聞くことができます。

知っておきたい！

おたすけアプリ

人に伝わるポスターを「色のシミュレータ」で

「この情報をたくさんの人に伝えたいからポスターにしよう」

「ここは危険な場所だから注意喚起のために目を引く掲示をしよう」

そんなふうに思って作った掲示物が実は「色覚特性」を持つ人にとってはとてもわかりにくいものになっていることがあります。色覚特性を持つ人にはどのように見えているのかを体験させてくれるアプリが“色のシミュレータ”です。

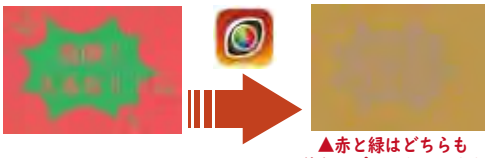
色のシミュレータ　アプリ公式サイトQRコード

◀こちらの画像は一般色覚の見え方。

これを色のシミュレータを使って見てみると…

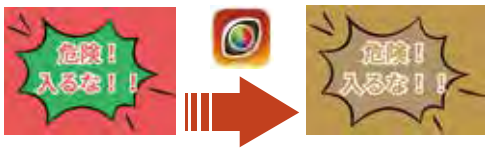
▲文字がほとんど見えなくなってしまう色の組み合わせがあることがわかります。

危険を知らせるための掲示もこれでは何が書いてあるのかわかりません。



▲赤と緑はどちらも茶色っぽく見えてしまう

ですが、同じ色使いでも文字や素材に縁取りを入れるなど少しの工夫で見えやすくすることができます。



☞ ICT 機器が普及し、誰もがデザイナーとなれる時代。せっかく何かをデザインするのなら、少しでも多くの人に見えやすく、伝わりやすいものを作りたいですよね。完成したものを色のシミュレータで確認してみると、より良いものを作り出すことができるでしょう。

●みなさまからのご意見や情報提供を募ります。投稿先⇒e-mail:udsagamihara@cocozutto.jp

UD さがみはら vol.2　■ ２０２４年１１月２５日発行
相模原市地域包括ケア推進課・NPO 法人ここずっと

〒252-0303　相模原市南区相模大野 9-6-18
☎042-851-5646　FAX042-742-0447
http://www.cocozutto.jp/

UD さがみはら vol.1 の音声版は youtube（右記QRコード）で聞くことができます。

@ud_sagamihara

ud_sagamihara

■『UD さがみはら』は令和６年度市民協働事業の「UD 普及・啓発事業」として発行するものです。